

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (1号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2276700214-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりの関わりを多く持ち、一人ひとりの気持ちに寄り添い悩みや相談等をしっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者が安心して楽しく生活できるように支援している。食事は栄養バランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を十分に把握しその方に合った食事作りをしている。
 ・施設という概念ではなく、自宅以外の穏やかで落ち着いた「第二の居室」という空間を提供できるよう、さりげなく配慮している。ご本人の残存能力を正しく見極めて極力 オーバーケアにならないように努め ADL維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「できる限り見守りたい」との想いを日々実践し、「できることは何でもやってもらい」、「第2の自宅」と思ってもらえる支援を旨とする事業所です。昨年からは特に「地域に根差した取組み」に目を向け、防災では福祉避難所の申し出を市に申請し、地域にも運営推進会議を通じて「避難所と位置付けられるよう地域を巻き込んだ防災訓練の実施」を予定しています。また「知波の会」(70歳以上の高齢者170名ほどの団体)からは自治会長を介してボランティアの紹介があるとともに、「高齢者施設の実態や介護保険について説明してほしい」との要請があり、講演会開催の運びとなっていて、地域資源を大いに活かしての前進がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりした介護と環境、楽しく過ごす第2の家を理念として管理者と職員は共有して実践にむけて努力している。	「楽しく過ごす第2の我が家」を念頭に、「何があればいいのか」「何をしたら想いに副えるのか」を職員が常に意識し、都度利用者に確認していくことで理念を実現させようとしています。例えば、親戚など多くの面会者がいる場合は速やかに椅子を用意する等、気遣っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事では案内状を頂いている。文化展には作品を出展したり、お祭りの際はホームの駐車場で踊り、休憩の場を提供している。	パナソニックのOB会「知波の会」から車いすの寄贈を受けたことを契機としボランティアの橋渡し役となってもらえたり、「介護保険や高齢者施設のことも聞きたい」との要望に応え、講演会の開催にまで及んでいます。ボランティアメニューも豊富で、また地域行事も常連です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話等をして理解をもとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の皆さんと一緒に、介護で苦労している話の情報を流したり、地域の皆さんの話を聴き施設でのサービス向上に活かしている。	本年で第61回開催となり、市高齢福祉課をはじめ地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族、利用者総勢14、5名ほどが隔月で集うことが出来ています。「知波の会」も自治会長がメンバーということでご縁が拡大し、積み重ねた年月を以て実を結んでいることが覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業連絡会や推進会議などの席で解らない事等、意見や助言を受けている。入居状況の情報を提供している。	毎月少なくとも1回は市役所窓口に出向き、生活保護を受ける利用者や後見人が付いている人の事柄でも他課に立ち寄っています。市とは、何かあればすぐ相談にのってもらえるような関係にあり、過去には家庭内虐待の緊急措置に協力したこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束をしないケアをしている。玄関のカギは利用者の安全の為施錠している。	施設前の道路が混雑時の抜け道に使われていて危険を伴うため、家族の了解もと「施錠はやむを得ず」としています。毎月の全体会議では必ず議題にあげるほか、特にスピーチロックは「自分が言われてイヤなことは言わない」を軸に相互で注視しあっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づいて対応している。研修課程の中で勉強している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の時、行政の人に聞いたり、包括支援センターに相談している。必要に応じて関係者と話合って活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には入居相談時から十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的に意見を聴くように努力している。家族から出された、意見や相談について、よく話し合い、運営に反映させている。	利用者担当が定められ、本人の様子や毎月のバイタルや受診状況、行事案内等報告しています。そのためか小さな不満をこぼしたり、指摘があったりと、何かにつけ速やかに申し出てもらえ、事業所も即是正して、風通しの良い関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の場で職員から出された、要望や意見を管理者と職員でよく話し合い、反映させている。	月1回の全体会議とフロアミーティング、不定期の個人面談で職員の意見を吸い上げるとともに、「話し合いを通じて互いを知ろう」と繰り返し、管理者から呼びかけてもいます。また管理者は「悩みを溜めずに仕事に没頭できるように」との想いで意見を聴くよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を守り、職場の整理整頓を実践し働きやすい職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接と、家族からの情報により、本人の要望、困っている事、不安なことを聞き、安心を確保するための関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはどのようなサービスを導入するのか、本人の情報を細かく聴き取り、家族、本人とも不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対面では本人が必要とする支援を見極める為に、十分なアセスメントを実施している。本人も交えながら話し合い、相談し、工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の大先輩として敬う気持ちを大切にを、家族としての思いやりも持ち、日々生活を共にしながらの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が何を心配しているのか、どう思っているのか聞き出し、職員の思いを伝え、共に本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に馴染みの人との関係が途切れることの無いよう本人の希望や訴えがある時は、連絡を取るようにつとめて無支援助につとめる。	近くの団地から入居の人たちにはよく近所の皆さんが訪れています。「あのレオちゃん(犬)どうしたかな？」と自宅の散歩中に出遭っていた犬を尋ねて歩いたり、つづじ公園に散歩仲間がいることからドライブ外出したりと、その人の想いに寄り添った支援をおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間で話の受け渡し役をしたりボール遊びやゲーム遊びの声掛け役をして利用者同士が交流できる雰囲気作りにつとめている。歌唱が好きな入居者が多く、合唱することが多い。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時はアドバイスして、状況に応じて、地域包括へ情報を提供してフォロー依頼をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細なるアセスメントを実施し利用者本位にサービスを提供している。	入浴や居室などで1対1となれるとき、想いのたけを聴くように心掛けていて、例えば目が不自由な人は時折やるせなのか怒りっぽくなったり、いらいらしたりするため様子が変わったことが見てとれたら戸外に誘って話を聴くようにして、本人本位で傾聴しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接、フェイスシート、家族からの情報で生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等把握している。モニタリングを定期的に行いサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、状態を観察し、定期的に行うモニタリングで現状の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に担当職員が会議を開き、課題について話し合い、介護計画を作成している。	3ヶ月ごとの見直し、介護経過・介護記録、排泄表、水分チェック表などのデータをベースに、職員と利用者のモニタリングを実施するほか、端々の言葉を聞き逃さないようにと努めています。また退院時には期間に関係なく作成し直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の様子、ケア等介護経過として記録している。気付いたこと等は職員間で申し送りして介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時、既存のサービス以外でもその時のニーズにあった対応をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が施設内の移動が車椅子の場合外出や通院の移動は家族と相談の上、介護タクシーを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の継続や事業所の協力医による受診を支援している。	昨今はほとんどが訪問診療となっていますが、事業所の協力医は通院を旨としているため、排泄状況や身体の異常有無、精神の状態が記載された連絡カードを携え、薬が無くなるタイミングで通っています。家族が難しいとのことから8割ほどが職員による通院介助です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問は中止になり、介護職員が日常の関わりの中で、情報や気づきを把握して、きめ細やかに協力医に伝えて適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時においても病院へ必要な情報が直ぐに伝えられるようにしてある。又病院側と情報交換して、退院日程等相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気が重度化した場合については、日頃から家族との間で話し合いを持っている。協力医の関係から医療機関への紹介等、方針を共有している。	重度化に際しては医師の見立てを考慮しつつ家族と話し合い、「今後どうするのか」は家族の意見を優先した結果、大抵老人保健施設や病院への移設となっています。ただし合意形成に足りない点があるため家族への「看取りに係る説明会」を8月に予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故等の対応は決められている。救急搬送する場合の手順は訓練で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練をしている。今年度は地域との共同訓練を実施して、常に相互協力体制を構築している。	夜間想定、風水害を含み年3回の訓練を実施しており、備蓄は3日分の用意があります。また有事の際誰もが誘導できるよう、居室入口のネームプレートに車いす、杖、歩行のマークを貼っています。	自治会の防災訓練にも積極的に参加してAEDの使い方や三角布の利用方法も共に学んだとのことなので、さらに進めて今後の連携について話し合う場を設けることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声掛けや対応はその状況に合わせ、周囲に配慮して行っている。個人情報の扱いには充分気をつけている。	「家族がその場においても感じが変わくない」言葉かけを念頭に置くとともに、耳の遠い利用者があることもあって、声のボリュームへの心配りも職員共通の認識となっていて、ジェスチャーや置き換えの言葉かけが身についています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや暮らしの希望を把握して日常生活を支援している。本人の思いや希望が表し易い環境を作るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況に合わせ周囲の利用者にも配慮して行っている。利用者のペースに合わせ日常生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されている衣類の中から季節にあった本人の好みを考えて対応している。散髪は2ヶ月に1回、本人と家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは職員がおこなっているが、下膳に関してはできる方はお手伝い頂いている。	普段は業者から届いた食材を職員が輪番で調理しますが、途中では男性には味見をしてもらい、女性には皮むきや筋とりをお願いして、利用者と一緒につくっています。畑で採れたさつま芋を使ったり、夏にはかき氷を取り入れるなど、ちょっとした愉しみにも配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼してあり、栄養バランスは十分に確保される様に支援している。食事量、水分量は介護記録に記し利用者の状態に応じた形態、量で支援している。透析利用者が入居されていて、特に水分量は厳格に管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。利用者が出来る範囲で口腔ケアをしてもらい出来ない事を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握している、利用者の体調に応じて対応し、支援している。	「トイレで座る」ことが自立に叶うとして、パットの大きさを工夫するなどして、オムツとなることを減らしており、大半が布パン、リハパンを使用しています。居室の洗面台をトイレだと思い用をたしてしまう人のことでは家族も交えて協議し、対策を練ったというケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、医師との連携を図りながら、便秘に対して利用者に適した処方をして便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、利用者がゆっくり楽しめる様に充分時間をとってある。入浴を嫌がる利用者には声掛けを重視して気持ちに寄り添い入浴できるように努めている。	週2日を目安とし、2槽分はあるかと思われる広い浴槽には気の合った2人で入浴する日もあり、また拒否までではないものの、「嫌い」という人でも「仲良しの人が入りますよ」と伝えたとスムーズなことが間々あります。3方の壁には手すりの設置があり、つかまりながら歩く人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の状態を観察しながら臥床の声かけをしている。 医師との連携を強化して、安眠が図れるように服薬管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に基づいて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、ゴミ袋の名前書き、カレンダーの入れ替え等、得意分野でそれぞれ力を発揮してもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、外気浴は天気や利用者さんの状態に応じて支援している。外出に関しては本人の希望を把握し、家族に協力を求め、対応している。	天気が良ければほぼ毎日戸外にでています。以前農家だった人も多く、庭に植えた野菜や花を眺めるのが愉しみのようで、石を拾ったり、花を摘んだりして過ごしています。春の花見や秋の紅葉、つつじ公園等季節の移ろいを眺めにドライブ外出する日もあります。	外気浴がほぼ毎日あって健康面の心配はないものの、年間行事に位置付けたミニ遠足や外食、または個別外出の日など「特別」な外出支援もあると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお小遣いは小口現金管理しており、受診、薬等に使う。本人の買いたいものがあれば、家族に相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心地よい場所を作りをし、環境を作り、明るく、清潔に整理整頓を実践して支援している。	動線の幅が広くとってあることから車いすを使う利用者が増えたことへの取組みが視え、またソファもテレビから離れていることを尋ねると「あまり見る人がいない」とのことで、状況に合わせて居心地よく共用空間をつくっていることが受け留められました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間においては、それぞれの利用者の希望に応じて、テレビを見る場所、ゲームをする場所、絵を描く場所、等のスペースを確保する工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者の思いや生活習慣、家族との懇談場所になるように支援している。	持ち込みは少なく、スッキリ整然としています。それでも自慢の家族写真を飾ってあったり、亡き伴侶を偲ぶように大きな写真を置いたり、サッカーファンはジュビロ磐田の勝利記事を掲示して、その人らしさが垣間見えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が一人で出来ることを考慮し、家族と職員が相談しながら安全で安心して過ごせる工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (2号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2276700214-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりとの関わりを多く持ち、一人ひとりの気持ちに寄り添い悩みや相談等をしっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者が安心して楽しく生活できるように支援している。食事は栄養バランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を十分に把握しその方に合った食事作りをしている。
 ・施設という概念ではなく、自宅以外の穏やかで落ち着いた「第二の居室」という空間を提供できるよう、さりげなく配慮している。ご本人の残存能力を正しく見極めて極力 オーバーケアにならないように努め ADL維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「できる限り見守りたい」との想いを日々実践し、「できることは何でもやってもらい」、「第2の自宅」と思ってもらえる支援を旨とする事業所です。昨年からは特に「地域に根差した取組み」に目を向け、防災では福祉避難所の申し出を市に申請し、地域にも運営推進会議を通じて「避難所と位置付けられるよう地域を巻き込んだ防災訓練の実施」を予定しています。また「知波の会」(70歳以上の高齢者170名ほどの団体)からは自治会長を介してボランティアの紹介があるとともに、「高齢者施設の実態や介護保険について説明してほしい」との要請があり、講演会開催の運びとなっていて、地域資源を大いに活かしての前進がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の運営理念「ゆったりした介護と環境」「楽しく過ごす第2の家」を職員一同、常に共通意識を持って日々、利用者の安全と安心を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の祭典や文化祭の行事等に参加して交流を図っている。夏祭りでは2号館は3名参加し、地域の人たちとの交流を図った。地域の方々のボランティアの来設が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学生の福祉体験の受け入れで学生時代から認知症の人の理解や関わり合いを経験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、市職員・包括・自治会長・民生委員が出席くださり施設の様子を報告し、問題点等助言や意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席された市職員から分からないこと等意見や助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に、言葉での拘束が無いように職員会議で議題に挙げたり、日々の対応で職員同士が共通意識を持って取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で実施しているAA課程の研修において正しい理解を得て身体拘束をしないケアを実践している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を持ち勉強会をした。認知症においては利用者が家族を確認出来る間に支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には入居相談時十分な説明を行い理解を得ている。その後の家族からの疑問等は素早く対応するように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的に意見を聴くように努力している。家族から出された、意見や相談について、よく話し合い、運営に反映させている。 意見箱を設置しているが特段利用はない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダー会で話し合い職員の全体会議で検討し合い地域責任者の意見や助言を参考にして反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の整理整頓を実践し働きやすい職場環境作りに努力している。館長と職員面談を随時、行う予定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。行政が開催している研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では納得して入所される方が少ないため、家族からの要望が主になっている事が多いが、入居前の本人との面談の際、本人の言われたことを見極め信頼関係が作れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では本人の意向等が確認できないことが多いため家族からの要望等が主になることを踏まえ家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を主に多方面からの情報収集もして最も良いサービス利用ができるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしている一方的な立場に立たず、人生の大先輩として敬う気持ちを大切に、時には職員の方からないことを相談できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子等、特に身体の様子は家族への連絡を密にして相談をしたり指示を仰ぎ本人にとって最も良い支援が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に馴染みの人との関係が途切れることの無いよう本人の希望や訴えがある時は、連絡を取るようして途切れのない支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共通の話ができるように席の配置を考慮したり話の仲介をしたりしている。風船バレーや歌の参加等声掛けをして利用者同士が交流できる雰囲気作りにも努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からの相談には最後まで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを十分に行いアセスメントシートに記入し、本人本位の生活ができるようにしている。言葉に現せない思いを汲み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人・家族・紹介者等から情報を得てなるべく環境が変化しないように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の観察に努め言動にも注意を払い変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に関く職員会議以外に、本人や家族からの要望を基に、その都度話し合い介護計画を作成しモニタリングをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった時は介護記録等に記入し、出勤時には必ず記録を読むようにしている。口頭での申し送りもして状況に合った対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体や言動の把握をし、家族との連絡を密にしてその時の状況に合ったサービスをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恒例の自治会の文化祭の出品物を家族と協力しながら、特技を活かし楽しみながら作り上げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医から、当ホームの協力医に変更することが多く、職員受診時特変があれば、その都度家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問が中止になり、介護職員が日常の関わりの中で、情報や気づきを把握して、きめ細やかに協力医に伝えて適格な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を詳しく説明している。入院中には看護師等に様子を聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明はしている。重度化しそうな時には予測をして事前に話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はしていないがマニュアルがある。新人職員には手順等は口頭でも伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練をしている。1回は夜間想定訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声掛けや対応はその状況に合わせて、周囲に配慮して行っている。排泄等の声掛けは、その人だけに聞こえるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない時は本人の日頃の言動に注意を払い言葉に表せない気持ちを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて焦らせない対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	機能性を重視することなく、本人や家族の希望に添って支援している。散髪は2ヶ月に1回、ご本人とご家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕は食材を献立し準備している、朝は食材をアレンジして施設の畑で作った野菜を利用している。食事の準備は安全に配慮し、入居者に手伝ってもらっている。片付けでは利用者が食器の洗いや拭き上げの手伝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼して栄養バランスは十分に確保されている。食事量は利用者の希望で調整している。嚥下障害がある利用者には水分にトロミを付けたり、刻み食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。義歯がない利用者にも歯ブラシで歯ぐきや舌を磨いてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄のサインを見逃さずトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の重度化が認知症の重度化につながることを理解し、水分摂取の促しや乳製品の摂取をしたりしている。それでも便秘が解消しない時は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人が週に2回を目安に、ゆっくり楽しめるようにしている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングを図りスムーズに入浴できるように声かけをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自席で傾眠している時はゆっくりできるようにソファーに座ってもらう。夜間は安眠できるように照明等配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋で薬の目的等を理解している。薬を飲み込むまで確認をしている。服薬後の症状の変化については医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら、お手伝いをする利用者の意思を尊重し快くお手伝いしてもらい生活に張り合いや役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ることが多く、食事に出掛けたり、年の行事(正月・盆等)に自宅に帰り墓参り等に出掛けている。地域の人々の協力は得られてはいない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は小口現金管理をして受診、薬等に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週、欠かさず遠方より電話が掛かってくる利用者がいる。手紙や荷物が届くこともありお礼の電話は掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をして転倒等を防ぐ努力をしている。観葉植物や季節の花を飾り季節感を味わってもらっている。 掲示板には入居者と協力し合った作品を季節毎に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの周りに居室がある環境ですぐに居室に入り独りになれる。食卓は利用者同士で全員の顔が見えるように配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初、自宅での馴染みの物を持ってきてもらっている。特技や趣味を生かした作品を居室に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者に対しトイレの戸に張り紙をしている。各居室にネームプレートや写真を貼り分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (3号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2276700214-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりとの関わりを多く持ち、一人ひとりの気持ちに寄り添い悩みや相談等をしっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者が安心して楽しく生活できるように支援している。食事は栄養バランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を十分に把握しその方に合った食事作りをしている。
 ・施設という概念ではなく、自宅以外の穏やかで落ち着いた「第二の居室」という空間を提供できるよう、さりげなく配慮している。ご本人の残存能力を正しく見極めて極力 オーバーケアにならないように努め ADL維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「できる限り見守りたい」との想いを日々実践し、「できることは何でもやってもらい」、「第2の自宅」と思ってもらえる支援を旨とする事業所です。昨年からは特に「地域に根差した取組み」に目を向け、防災では福祉避難所の申し出を市に申請し、地域にも運営推進会議を通じて「避難所と位置付けられるよう地域を巻き込んだ防災訓練の実施」を予定しています。また「知波の会」(70歳以上の高齢者170名ほどの団体)からは自治会長を介してボランティアの紹介があるとともに、「高齢者施設の実態や介護保険について説明してほしい」との要請があり、講演会開催の運びとなっていて、地域資源を大いに活かしての前進がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした介護と環境、楽しく過ごす第2の家を理念として管理者と職員は共有して実践にむけて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事では案内状を頂いている。文化展には作品を出展したり、お祭りに参加して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話等をして理解をもとめている。中学生の福祉体験を受け入れている。相互協力の元、災害時の地域連携活動を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の皆さんと一緒に、介護で苦勞している話の情報を流したり、地域の皆さんの話を聴き施設でのサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会や運営推進会議などの席で解らない事等、意見や助言を受けている。。介護相談員を受け入れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護現場におけるミスやエラーを見逃さず情報を収集し検証して身体拘束をしないケアをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で常に虐待行為の意識の共有化を図って、お互いにチェック合っている。特に言葉遣いに気を使っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、CMIは外部研修に積極的に参加して、常に最新の介護技術・制度について勉強する機会を得ている。知り得た情報技術は全体会議等で職員への研修に活用して情報の共有化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には十分な説明を行い理解を得ている。その後の家族からの疑問等には素早く対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族とのコミュニケーションを図り積極的に意見や要望を伝えられるような雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダー会で話し合い職員の全体会議で検討しあひ地域責任者の意見や助言を参考にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良好な人間関係を築き、働き易い職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を傾聴し、寄り添い安心と安らぎを感じて頂くために常に笑顔で接するように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意向等が確認できないことが多いため家族からの要望が主になることを踏まえ家族との関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思いを傾聴して要望を十分伝えられるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場にならず人生の大先輩として敬う気持ちを忘れずその方の感情を大切にしている。相手の立場になり、自分の言葉や態度にも注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、受診等必要に応じて家族と話す機会を設け入居者と家族の関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れる事のないように訴えを聞き連絡をとり途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が参加できる風船/バレーをしたり、会話の仲介をして楽しい雰囲気作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からの相談には最後まで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを傾聴し、日常会話を積極的に交わして本人の意思を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネを通して情報を収集し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症であることを踏まえて観察をし情報交換、記録を活用して共有に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の思いや意見を反映している。カンファレンスにて意見交換し、できるだけ迅速に実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特変など記録して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のご要望に応じて、主治医の監修の元、外部のマッサージサービスの提供に依拠している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が施設内の移動が車椅子の場合外出や通院の移動は家族と相談の上、介護タクシーを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の継続や事業所の協力医による受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問が中止になり、介護職員が日常の関わりの中で、情報や気づきを把握して、きめ細やかに協力医に伝えて適格な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家人や病院と密接に連絡をとり、情報収集に努め、退院後のケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望や意向が反映できるように十分話し合いをする。ホームでの出来る支援の力を見極め早目の判断をしたほうが良いときもある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故等の対応は決められている。救急搬送する場合の手順等訓練で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練。している、今年度は地域との共同訓練を実施して、常に相互協力体制を構築している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け一人ひとりに適した声掛けをしている。声の大きさにも配慮している。プライドを傷付けない様に一人ひとりに適した声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のレベルに応じて対応し、思いを傾聴し表情より汲み取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添った支援ができるようにしている。就寝時間は特に設けず、一人ひとりの生活リズムを慎重に見極めて、自然な対応を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装選びをしているが職員の好みになってしまう事がある。散髪は2ヶ月に1回、本人と家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつは手作りしたり、施設内で採れた野菜を献立にいれて季節を感じていただいたり彩りよくする工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼しており、栄養バランスは十分に確保される様に支援している。個々に応じて量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。利用者が出来る範囲で口腔ケアをしてもらい出来ない事を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握するように努めている。パットの種類を工夫しているが見直しも検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、医師との連携を図りながら、便秘に対して利用者に適した処方をして便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、利用者がゆっくり楽しめる様に十分な時間をとってある。入浴を嫌がる利用者にはシャワーを活用している。安心して入浴できるように声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は20時くらいに入床する事が多いが21時頃を消灯時間として、それまではテレビを観たり、雑談をして自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の全て、薬を飲んだ事を確認し、服薬後の症状の変化については医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でそれぞれ力を発揮してもらえるよう支援している。洗濯物干し、たたみ、花の水やり、カーテンの開閉、絵を描く、塗り絵、裁縫などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて買い物、外出、散歩、草取り、花見など季節を感じてもらえるような行事をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は小口現金管理をしており、受診、薬、嗜好品等、状態に応じて買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って対応している。家族から手紙がきたり、手紙や電話が掛ってくる利用者がいる。年賀状の支援をしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心地よい環境作り(家族の写真等)に配慮している。季節感を取り入れた折り紙や工作で工夫を凝らしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間におけるそれぞれの利用者のいる場所作りを工夫している。定位置の方が安心出来る方がおり、個々の希望があった際は支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者の思いや生活習慣、家族との懇談場所になるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人で出来ることを考慮し、家族と職員が相談しながら安全で安心して過ごせる工夫をしている。		